

膠原病・リウマチ内科

(スタッフ)

部長：柴富 和貴

(診療実績)

2016年7月より腎臓・膠原病内科が腎臓内科と膠原病・リウマチ内科に分離していますが、実際の診療は腎臓内科のサポートを得て行っています。

血管炎などで腎臓病変を主徴とした病態は腎臓内科で加療をお願いするが増加傾向にあります。

未だCOVID-19のパンデミック下にあり患者からの「できるだけ外来で治療を行ってほしい」という要望はさらに強まっており、その希望に応えるかたちで当科の診療は外来に主軸を置いている傾向となっている状況です。

さらに様々な免疫抑制剤の発達もあり膠原病患者は外来で病勢をコントロールできることも多くなっており総入院数の減少がみられています。

(研修・教育)

当科は腎臓内科と共同で研修医のスーパーローテーションを担当し、多数の研修医の教育に従事しております。

2022年の初期研修医のローテーションは以下のとおりでした。

- 福田 貴仁先生 : 1月
- 柴田 稔文先生 : 1月
- 小畑 天義先生 : 2月、3月
- 豊田 那智先生 : 2月、3月
- 鄭 武尚先生 : 4月、5月、6月
- 後藤 悠希先生 : 4月、5月、6月
- 青木 希美先生 : 7月
- 甲斐 大喜先生 : 8月、9月
- 安部 さやか先生 : 8月、9月
- 吉橋 誠人先生 : 10月
- 中村 裕太先生 : 11月
- 安東 和真先生 : 11月
- 石川 優太先生 : 12月

(今後の方向性)

現在、腎臓内科の協力を得て診療体制を構築しており、カンファランス、回診など共同で行っております。膠原病、リウマチの診療は毎年のように画期的な新薬が登場して、以前のようにすべての治療はステロ

イド頼りというイメージから様変わりしています。

たとえば、SLEの患者は初期治療が成功すればステロイド中止に至る例も着実に増えてきています。当科でもリウマチ、膠原病の薬剤によるコントロールは全体的によくなってきており、入院よりも、外来で開業医の先生方、院内他科の先生方からのコンサルテーションを受ける業務の比重が年々高くなってきています。

当院の膠原病、リウマチ専門医は柴富一人でありますので、地域の病院との連携を重視しております。大分大学、九州大学病院別府病院、大分赤十字病院をはじめとした大分県内の膠原病、リウマチ専門の先生方と協力して、よりよい診療を目指しておりますので皆様方のご協力をお願い申し上げます。

(文責：柴富和貴)

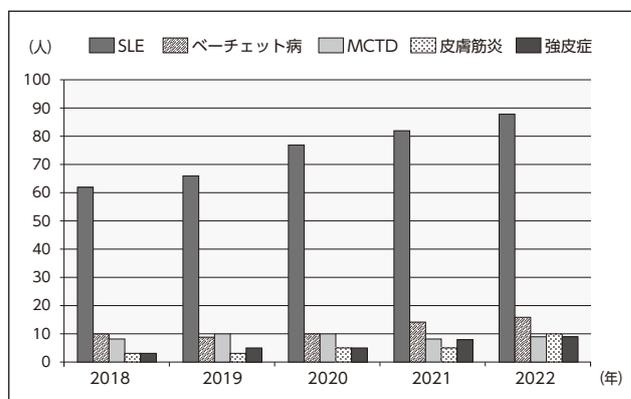


図 当科通院中の膠原病患者数の推移（指定難病診断書の作成数を元に算出）